



観測所報告： サポートサイエンティスト

寺田 宏
サポートサイエンティスト・チーフ



サポートサイエンティスト・ラインナップ

Hiroshi TERADA:	Chief
Akito TAJITSU:	HDS
Hisanori FURUSAWA:	Suprime-Cam
Kentaro AOKI:	CISCO/OHS (FOCAS)
Michihiro TAKAMI:	AO (IRCS, Suprime-Cam)
Miki ISHII:	CIAO (IRCS, Suprime-Cam)
Takashi HATTORI:	FOCAS
Tae-Soo PYO:	IRCS (HDS)
Takuya FUJIYOSHI:	COMICS (CISCO/OHS)
--	
Ichi TANAKA & Yuka KATSUNO:	MOIRCS



2005年、この一年

装置部門長 変更の時期とも重なり、、、

装置メンテナンス・トラブルシューティング・
セットアップにまだまだ多忙

装置の使用年数[~5年]を考えるとこれから
より細心のメンテナンスが必要となる！！

→ ハンドオーバーほど大げさでなくとも、
人手[マンパワー、特に山頂]をきちんと確保できる
体制を作り上げていくことが急務。

この一年、よく頑張りました。。。。



その一方、、、

Pre-Observation 及び Post-Observation サポートが
切実に不足している。

Pre-Observation サポート:

- (1) Web情報(<http://www.naoj.org/>)の充実・整理・統合
- (2) 装置性能モニター
- (3) 観測手順書生成ツール作成サポート

Post-Observation サポート

- (1) 解析資料作成
- (2) 解析パイプライン施設サポート
- (3) 解析状況追跡

→ これらはSSの重要な業務の一部。



そこで、、夜間サポート負担軽減

これまでSSは、**高いモラルに支えられて、**
ほぼ全夜張り付きサポートをしてきた。
→ **本来のSSの業務形態とは異なる。**

これからは、状況に応じて(*)観測現場を離れた
サポート形態を励行していくことをご理解頂きたい。

(*) 装置の動作状況が安定しており、観測者が観測手順を十分に理解できているような状況。
例えば、複数日ランの後半日、もしくはヘビーユーザーの観測の後半等では
十分実施できると考えられる。

捻出した時間を、各担当装置に対する
細やかなメンテナンス・Pre-&Post-Observation サポートに
費やすことで、総合的により良い成果を創出できる。



最後に、観測効率維持の為に

観測所では、観測効率維持・向上の為にサイエンティストによるオペレーションも検討している。

- 秀でた能力を示しているオペレータに
科学教育を行いプロモートしていく。
- オペレーション専門SSを確保する。

→ キュー観測本格導入に踏み切った場合には、
これらの人員がキュー観測者の役割を果たす
ことが期待できる。